



音更町編

電子版でも→



マチの毎日がニュースに。地域の問題をより深く。

音更町内の医療法人社団「すずらんの里」(阿部郁代理事長)のサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)「はるかぜ」(すずらん台仲町1)は、7月1日に住宅型有料老人ホーム「アニカ音更」に事業転換する。「アニカホスビス」(鐘ヶ江紗里・岩淵寛太郎共同代表)の経営となり、医療と介護の依存度の高い人でも在宅に近いアットホームな環境で最期まで過ごせる場を目指す。(内形勝也)

住宅型有料「アニカ」音更開設へ

内科医院に隣接

「はるかぜ」は、阿部理事長が院長を務める「おとふけホームケアクリニック」に隣接。2016年4月の開業で、定員25人に対して、現在は8人が入居している。同クリニックは、一般内科や訪問診療を手掛けている。

アニカホスビス共同代表の2人は共に上士幌町在住で、鐘ヶ江さん(37)は元陸上自衛隊幹部で看護師、岩淵さん(42)は元大手総合商社マン。24年3月に同社を設立し、同7月に足寄町内に住宅型有料老人ホーム「アニカ足寄」を開設し

管内2施設目

アニカ音更は、十勝管内2施設目となる。アニカ音更でも、質の高い医療と介護を受けながら在宅のような環境で最期まで過ごせる場を目指す。鐘ヶ江代表は「自分らしく生きる」を

目指す医療特化型有料老人ホーム」と語る。同医療法人は、物件を同社に賃貸するほか、おとふけホームケアクリニックが協力医療機関となる。阿部

理事長(69)は「現在の介護報酬の仕組みでは、在宅での介護や医療が難しい現状の中で、アニカ音更は在宅に近い環境を提供する」と語る。

現在の入居者8人はそのまま入居し、空き室は新入居を募集する。介護度を問わずに対応し、今は自立しているが将来の療養場所に備えたい人も入居対象とする。

アニカ音更の家賃は3万6000円(6万円(部屋タイプによる)、水道光熱費(共益費)2万8000円、食費(30日の場合)4万5000円、暖房費(10(4月)1万5000円。このほかに訪問看護費や訪問介護費、訪問診療費などがかかる。問い合わせは、アニカ足寄(0156・28・0550)へ。



7月1日の「アニカ音更」へのリニューアルに向け意気込むアニカホスビスの鐘ヶ江代表(右)と岩淵代表(左)、すずらんの里の阿部理事長(中央)